

<b>活動名</b> 「古泉城彦六物語(改題:「これはいしくのひこさん」)」 紙芝居プロジェクト	<b>団体名</b> 古泉城ニコマル文庫 <b>地域</b> 山口県萩市 <b>代表者</b> 主宰 伊藤 里絵 <b>支援金額</b> 20万円
<b>活動概要</b> <p>古泉城ニコマル文庫の活動拠点となっている古戦場地区に伝わる農民石工「彦六」さんを題材に創作積み上げばなしの紙芝居を完成させた。製作に当たっては紙芝居作家やべみつのりさんの全面的な協力をいただいた。やべみつのりさんを招聘して講演会と紙芝居の製作指導を受けるにとどまらず、作画も担っていただいた。そのため、出版に耐え得るレベルの紙芝居に仕上がった。また、来日したアフガニスタンの子どもたちに東京で紙芝居を手渡すことができた。その際にはやべみつのりさんも同席され、熱いメッセージを子どもたちに送っていただいた。</p> <p>紙芝居の第1作が仕上がったことにより、講演などに招かれた際にこの紙芝居を上演し、地域の歴史や文化を掘り起こすだけでなく、手づくりの紙芝居が異文化理解や環境理解などを進める教材としての可能性を持っていることを伝えることが出来た。</p> <p>当初計画した活動の内容に多少の見直しがあったものの、概ねプロジェクトの趣旨に沿った活動を行うことが出来たのではないか。</p> <p>◆実施時期 2010年4月～2011年3月 山口県萩市、東京都新宿区、静岡県浜松市</p> <p>◆参加人数  児童・青少年:約80名  児童の保護者:約20人  学校・図書館関係者及びボランティア:約30人  寺院に集われた方(高齢者が大半):約100人  参加総人員(延べ) 約230名</p>	



アフガニスタンの子どもたちが贈呈した紙芝居を持って、東京・新宿にて



贈呈した紙芝居を手にして



「これはいしくのひこさん」の上演  
静岡県浜松市 龍谷寺にて



明木小学校での講演会の様子

#### ◆実施に伴う効果

1. 紙芝居作家やべみつのり氏を招いた講演会や紙芝居製作指導がきっかけで、文庫主宰者の伊藤里絵を講師にして萩市立明木図書館で子ども向けの「かみしばいづくり」講座が始まった。(2011年5月より)
2. 阿武川源流域の歴史や言い伝えを題材にした紙芝居の第1作が製作できたことにより、第2作目の構想を固めることが出来た。2011年～12年度には「川上平助権太物語」(仮題)を予定している。
3. 地域の身近な題材を基にした紙芝居が、国際交流や異文化理解のためのツールとして有効であることを提示できたのではないだろうか。

#### ◆苦労した点

1. 地域に伝わる「偉人」として戦前に掘り起こされ顕彰されており、話の内容が当時の政治的な影響を強く受けていると考えている。伝わる話をそのまま紙芝居にすると異なるメッセージを出してしまうため、「創作積み上げ紙芝居」にすることにより、地域を流域で捉え、動物や生物を登場させ、いのちの連鎖と循環を考えることの大切さを織り込んだ紙芝居となった。
2. パシュトゥン語への翻訳に時間的な余裕がなかったため、専門家によるチェックができなかった。(その旨は、受け取ったアフガニスタン人(NGO図書館担当職員)には伝えている。)
3. 出版するための予算が用意できていないため、まだ出版のメドがたっていない(2011年6月時点)

#### ◆今後の課題・発展の方向性

1. 製作した紙芝居を出版・普及するための財源づくりが大きな課題である。
2. 第2作として、やはり阿武川流域に生きた百姓を題材に構想を練り始めている。
3. 地域の社会福祉協議会や老人施設、小中学校、図書館などと連携しながら、高齢者の生きた歴史を聞き出して、「人生紙芝居」の製作を進める計画を練っている。人生紙芝居の製作や上演を通じて異世代交流の推進や地域に暮らした人間の歴史を地域の図書館に残していくことを提案していく。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

1. 1年限りの助成ではいろいろ難しい面がある。金額は大きくなくても、せめて3年ぐらいの期間、継続してサポートしていただけると有難い。
2. 地方自治体が行政主導で下請けNPOを設立している現状があり、その状況下で行政機関又はその影響を受けている団体などの推薦を申請時に求めることは、ますますNPOなどの市民活動団体を行政の下請け的位置に追い込むことになりかねない。貴財団においては、民間の助成財団として行政と距離を置き、独自の方針で助成をしていただけることを期待している。